

# 青春スクロール

母校群像記

<http://t.asahi.com/dnnn>

多摩高校は進学校だが、卒業生たちは勉強よりも、いかに青春を燃焼させたかを熱く語る。自由な校風ゆえか、早い時期からロック音楽の部活動も認められた。数々の人材が巣立つた「おたまじやくし」だ。



多摩高校

3歳から小学6年までピアノを習い、フォークソングがブームだった中学時代にはギターを買った。「F」のコードを押さ

部活にロック音楽「おたまじやくし」

3歳から小学6年までピアノを習い、フォークソングがブームだった中学時代にはギターを

買った。「F」のコードを押さ

3歳から小学6年までピアノを習い、フォークソングがブームだった中学時代にはギターを

買った。「F」のコードを押さ

3歳から小学6年までピアノを習い、フォークソングがブームだった中学時代にはギターを

買った。「F」のコードを押さ

3歳から小学6年までピアノを習い、フォークソングがブームだった中学時代にはギターを

買った。「F」のコードを押さ



1980年代にロックに熱中した人なら、長髪に端正な顔立ちで何台ものキーボードを自在に弾きこなす「WOW WOW (ヴァウワウ)」の厚見玲衣(56、76年卒)を覚えているだろう。解散後も忌野清志郎やRCサクセションのライブで活躍。今もステージに立つ。

3歳から小学6年までピアノを習い、フォークソングがブームだった中学時代にはギターを买的、音楽家として活動する。3年生がやっていたバンド名。多摩高を乗っ取るという意味だったと思ふ。3人組バンドのベース奏者だった風巻は顧問になつたと想う。3人組バンドのが、ギタリストでアイルランドの民族音楽を使う弦楽器、ブルズーキ奏者の沢村拓(55、77年卒)。卒業後、厚見のバンドに誘われてプロになり、西城秀樹や矢沢永吉、今井美樹、中村雅

えると指が痛くなつたが、逆に「コードをピアノの鍵盤に置き換えるべきだ」と気付いた。多摩高でおたまじやくしに入った厚見は「先輩たちのレベルの高さに刺激を受けた。それがプロになつたきっかけの一つ」と話す。

オルガンを倒しながら弾く厚見の姿に衝撃を受け、入部したのが、ギタリストでアイルランドの民族音楽を使う弦楽器、ブルズーキ奏者の沢村拓(55、77年卒)がいた。「高校生離れしてたセンスだった」と振り返る。おたまじやくし出身の秦正彦(53、79年卒)は、米国の弁護士と公認会計士の資格を持つ税務コンサルタント。体育祭では「修学旅行の服装は制服だと指定されたが、みんなで抗議して私服を実現した。『このまま

妻となるピアニストの西山淳子(55、77年卒)の作詞で曲を作

ったこと

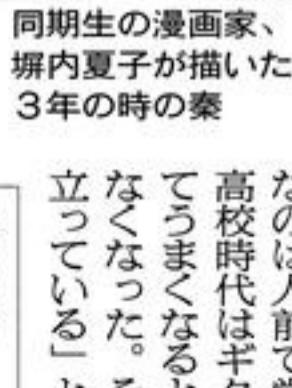
たことは忘れられない。

妻となるピアニストの西山淳子(55、77年卒)の作詞で曲を作

ったこと

たことは忘れられない。

多摩高(川崎市多摩区宿河原)は1956年創立。終戦後、新制高校として市内で最初に開校した県立高で、2016年に60周年を迎える。近くを壮大な多摩川が流れ、約4万平方メートルの敷地は緑にあふれる。厚見と沢村が出演するライブ「MOON DANCER VS TACHYON」は18日午後6時から東京・高円寺HIGHで。立ち席、整理券順の入場で、当日券は6500円。



同期生の漫画家、堀内夏子が描いた3年の時の秦

この記事は日本国憲法第2条の規定により保護されています。